

シカ捕獲プロフィール

(中部局) 東信森林管理署

1. 署の基本情報

① 署の基礎的情報

管内面積	58,712.16ha		
シカ生息密度	50頭/km2以上		
管内市町村数	15		
	R3	R4	R5
更新面積	48.02ha	111.14ha	107.08ha
人工造林面積	48.02ha	84.13ha	107.08ha
シカによる森林被害面積	0.00ha	0.00ha	0.00ha
うち、人工林被害面積	0.00ha	0.00ha	0.00ha

※1

② 署のシカ捕獲等対応体制

担当職員	森林技術指導官		
	R3	R4	R5
全職員数	35人	36人	33人
わな講習受講者数	0人	0人	0人
狩猟免許所持職員数	0人	0人	0人

③ 捕獲実行形態

		R3	R4	R5
職員実行				
委託事業		○	○	○
わな貸出	協定	○	○	○
	協議会	○	○	○
その他	鍵貸与	○	○	○
	除雪等			
	その他			
	協議会	○	○	○

④ 協定・協議会数

		R3	R4	R5
わな貸出	協定	1	1	1
	協議会	3	3	3
その他	鍵貸与	1	1	1
	除雪等			
	その他			
	協議会	4	4	4

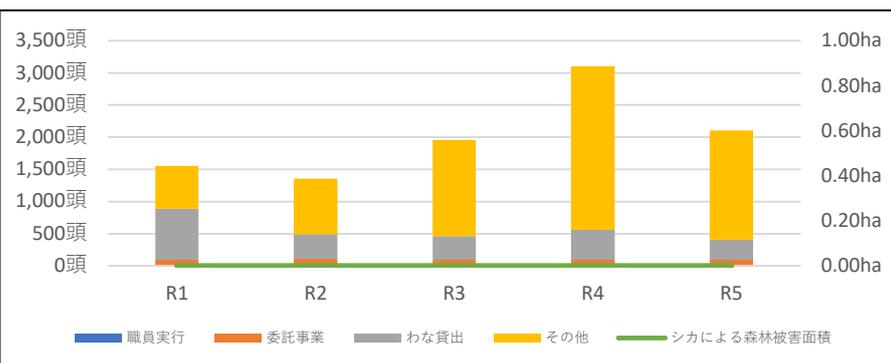
⑤ 捕獲の方法、実施時期

・ 捕獲の方法	R3	R4	R5	
改良型わな等	小林式			
	こじゃんと			
	その他	○	○	○
くくりわな	○	○	○	
囲いわな				
銃(モバイルカリング等)	○	○	○	
・ 捕獲実施時期				
職員実行				
委託事業	3月～11月			
協定	4月～3月			

⑥ 捕獲以外の被害対策

シカ防護柵実施有無	有
シカ忌避剤使用有無	無

2. 捕獲頭数とシカによる森林被害面積の推移



		R1	R2	R3	R4	R5
捕獲頭数	職員実行	-	-	-	-	-
	委託事業	92頭	111頭	93頭	95頭	90頭
	わな貸出	796頭	377頭	369頭	467頭	316頭
	その他	668頭	870頭	1,493頭	2,543頭	1,702頭
	計	1,556頭	1,358頭	1,955頭	3,105頭	2,108頭
シカによる森林被害面積		0.00ha	0.00ha	0.00ha	0.00ha	0.00ha

★森林被害対策のワンポイントアピール

① 委託事業による捕獲

猟友会の高齢化は進んでおり、ベテランから若い会員への「技」の伝承(獣道の見分け方やわなの設置場所)を効果的に進めてもらうよう、個別や協議会の場等において要請しています。

クマの錯誤捕獲を回避する意義を説くとともに、署として「ベアウオーク」の併用を推奨し、錯誤捕獲を低減させています。(ただし、掛かり増しとなる費用が課題となり、理解を得るのは容易ではない。)

⇒「4. 委託事業」をご参照ください。

② わな貸出による捕獲

管内全猟友会に計800個前後のわなの貸出を実施しています。貸出の準備段階で猟友会の意見を丁寧に聴取し、また予算事情も踏まえつつ、わなのタイプ及び数量とも、借受者が快く使ってもらえるよう努めています。

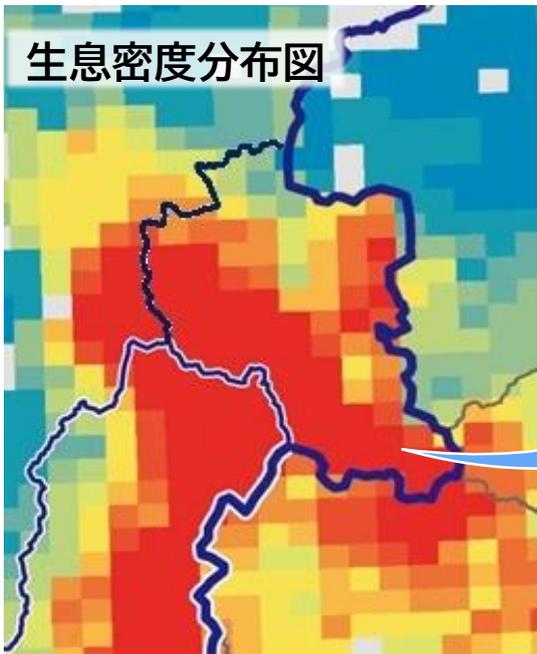
「いのしか御用」と「Y式わな改」の利点を融合した「ベアウオーク」を試供品として追加で50個貸し出し、更なる普及に努めています。

⇒「5. わな貸出(協定・その他)」をご参照ください。

協議会等を通じた効率的な連携やわなの貸出等による捕獲頭数の上積み(緩和)と防護柵の設置による対策(適応)の組合せにより、森林の面的被害をゼロに抑えています。

※1 シカによる森林被害面積は、森林被害年報における実損面積です。

3. 管内図



凡例

	国有林野
	森林管理署
	森林事務所
	上信越自動車道
	中部横断道無料区間
	一般道(国道)
	北陸新幹線
	在来線

4. 委託事業

① 基本情報・トピック

応札者数

2 (1事業あたりの平均)

目標頭数の決め方

・長野県第二種特定鳥獣管理計画(第5期ニホンジカ管理)や生息密度、例年の委託捕獲実績、各市町村の実施する有害鳥獣駆除及びその他狩猟などの捕獲状況の見込み等を総合的に勘案して目標頭数を設定しています。

② 特記仕様書での工夫

・わなのタイプを限定し過ぎると慣れない製品の使用を強要することになり捕獲頭数が減る可能性があることから、使用するわなのタイプは、敢えて「くくりわな」以上の限定は行わないこととしています。

(ただし、口頭で錯誤捕獲の少ないわなについての推薦は実施。)

・原則ペット用ジビエ施設への搬入を明記しています。

記載内容:捕獲した個体は速やかに回収し、必要な記録等を行ったうえで、原則施設に搬入するものとしています。

(ただし、鮮度や状態が不適な個体については、現地埋設も可能)

③ 委託実行の流れ

実施期間・時期の決定

・クマの錯誤捕獲防止の観点から、早期発注のうえ実施期間を狩猟期開始の前日までに設定しています。

ボトルネック※2

└ 台風・豪雨等の自然災害
└ 錯誤捕獲
└ 従事者の安全と捕

改善策※3

└ 錯誤捕獲しにくいわなへの変更

実施場所の決定

・実施者の判断で、水場周辺や道路近傍、目撃情報が多い箇所等を選定しています。

ボトルネック

└ 実施者の経験や技量で効果に差が出る
└ シカ等の学習能力の向上

改善策

└ 実施者の技量の向上

わなの設置

・錯誤捕獲しにくいと考える「ベアウォーク」の併用を推奨しています。最終的には受託者の判断でわなのタイプを決定(笠松式と信英式が主流)しています。なお、誘引材は使用していません。
・ICT機器は限定的に利用しています。

ボトルネック

└ 費用の増加
└ 猟友会の固定的嗜好

改善策

└ 錯誤捕獲防止わなの必要性の説明と推進

見回り

・猟友会の中で時間的に柔軟に対応可能な農業者が主に対応し、他の会員が補完しています。一部ICTによる自動通知機能を活用していますが、費用等の問題で限定的となっています。
・佐久市と小諸市での錯誤捕獲時は、猟友会から署が連絡を受け、署が地元のNPO(ピッキオ)に依頼して有償で放獣を実施しています。

ボトルネック

└ 従事者の高齢化
└ 農繁期等との重複

改善策

└ ICT機器の導入による効率化
└ 若手従事者の養成と人員の増強

止めさし

・棍棒による撲殺や、電流による電気ショックにより実施しています。
・近寄ることが危険で周囲の安全が確保できる場合のみ銃を使用しています。

ボトルネック

なし

改善策

なし

処理・埋設

・原則、ジビエ施設への搬入または自己消費しています。
・個体の状態及び捕獲場所(搬出が困難な場合)等によっては埋設処理を行っています。

ボトルネック

└ ジビエ施設が希少
└ 捕獲個体の運搬・搬出が困難
└ 人力での埋設穴の

改善策

└ ジビエの普及に向けたPR

前年度の実績(森林被害面積抑制、捕獲頭数増加)を更に伸ばすために予定していること

・効率的な捕獲手法の普及啓発に取り組む。

※2 全体に影響する問題要因で最も問題視される要因のことです。本票では各取組業務を妨げる要因として取り扱います。
※3 ボトルネックを解消するための方法です。

5. わな貸出(協定・協議会)

① 基本情報

管内市町村数 15
 協定締結数 1 (林道ゲートの鍵貸与)
 協定相手方

南佐久地区猟友会、北佐久地区猟友会
 (立会人)佐久地区野生鳥獣保護管理対策協議会

協議会参画数 4

協議会相手方
 長野県、環境省、関係市町村、猟友会、森林組合、
 (JA、農業改良普及センター、漁協、畜産農業組合)など
 (注)カッコ内は一部協議会のみ

② 協定・協議会裏話

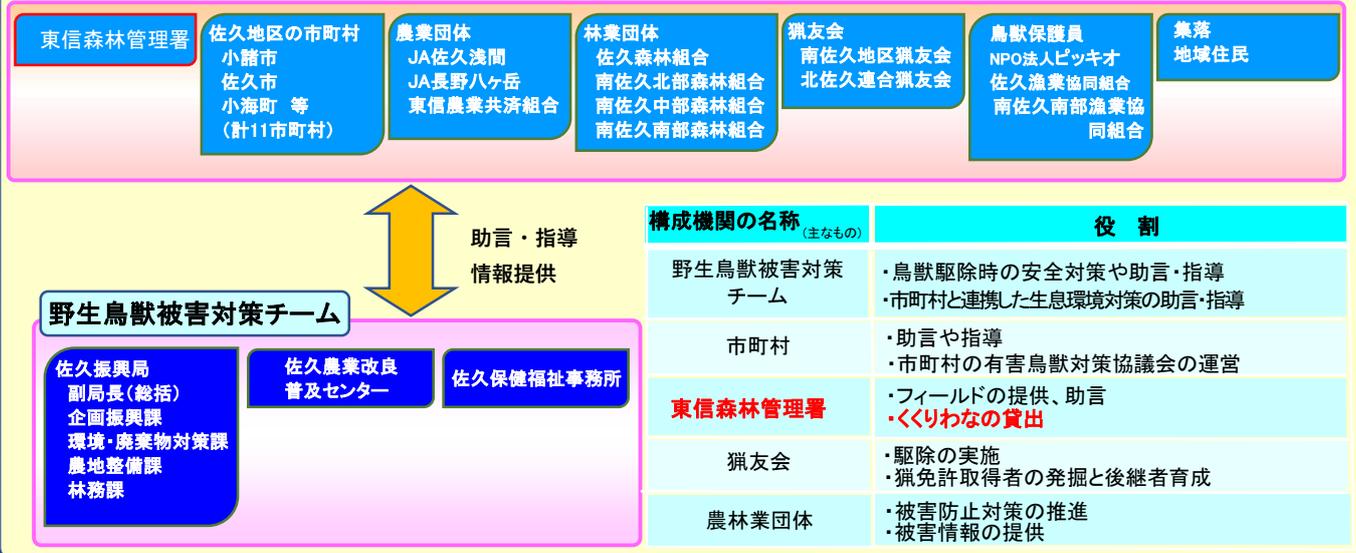
協定締結、協議会発足等にいたるキッカケ
 地域での被害拡大を受けて、協定については署から各猟友会等へ、協議会については県から関係機関へ、それぞれ打診しています。

協定締結まで、協議会の運営で苦勞した点
 ・各支部(猟友会)の独自性が強く、協議会において連携が進みにくいことです。
 ・国有林ゲートの鍵の貸出先及び管理責任が曖昧になりがちです。

協定締結や協議会運営で工夫した点
 ・大規模な対策(巻狩等)の際、各支部の連携が求められることから、協議会の運営が和やかなものとなるよう協力しています。また、協議会での署の存在感を強調するため、署長の関与を心がけています。

③ 協定・協議会関係図(一例)

佐久地区野生鳥獣保護管理対策協議会



協議会について
 会長:佐久地域振興局長
 事務局:佐久地域振興局林務課
 目的等:
 ・個体数調整・生息環境整備等の保護管理関係者の合意形成
 ・広域かつ効果的な被害対策の支援
 ・各市町村の有害鳥獣対策協議会同士の連携強化
 ・野生鳥獣に関する研修会の企画・開催
 ・野生鳥獣による農林被害に対する総合支援
 ・ジビエ等の積極的な利用の検討

<情報>

使用わな:署は各支部の要望を踏まえ、笠松式・信英式・石尊等を貸出のほか、個人所有等のわなを使用。
 期間:協議会を通じたわなの設置は通年実施。持ち込みはあまり伸びていない。

★協定締結まで、協議会運営のボトルネック(課題)と改善策



協定相手方、協議会参画者からの声

- 被害の軽減につながったと思いますが、対策はエンドレスと感じます。
- 他の市町村の猟友会との交流を通じ、知見が増えています。
- 協議会を通じて署の担当者と面識ができたことで気軽に話せるようになり、相談がしやすくなっています。
- 協定により国有林への入林に「お墨付き」が得られたことで、国有林内での活動がしやすくなっています。

前年度の実績(森林被害対策、捕獲頭数)を更に伸ばすために予定していること

- 引き続き猟友会等へのわなの貸し出しを行い、捕獲数を増加に取り組む。
- 効率的な捕獲手法の普及啓発に取り組む。

6. その他(地域と一体となった検討会の取組)

① 検討会までの準備

- シカを効率よく捕獲することができる「小林式誘引捕獲法」の普及を図るため、長野県佐久地域振興局と連携し検討会を計画。
- 管内各市町村、猟友会に参加を呼びかけ。
- ジビエ活用に向けて、捕獲現場から処理施設まで冷やしながらか搬送するシステムを開発した「オンサイテック(株)」に鳥獣搬送冷却機のデモンストレーションを打診。
- 検討会開催2週間前からわな設置予定箇所に誘引用の餌まきを実施。
- 実施に向けて局技術普及課がアドバイス。

② 検討会当日の様子



考案者である林野庁の小林氏による
「くくりわな」設置の説明・実演



真剣に見入る参加者



鳥獣搬送冷却機の
デモンストレーション

参加者からの声

- ぜひ、小林式誘引捕獲法を実践してみたい。
- わなの設置から個体の回収までのトータル比較でメリットが大きいと感じた。
- この捕獲法を他の方にも強く勧めたい。

署長が語る

令和6年11月、当署では、地域と一体となった捕獲技術等の普及を図るため、長野県佐久地域振興局と連携し、森林・林業関係者を対象に、初心者でも簡単に効率よく捕獲ができる「小林式誘引捕獲法」の現地検討会を開催しました。地元自治体やハンターの方々など約40名に参加していただき、その様子はテレビやWEBで放送され、多くの方にご覧いただくことができました。

また、現地検討会では、捕獲したニホンジカをジビエ利用するため、林内を保冷しながら運搬できる「鳥獣搬送冷却機」のデモンストレーションも実施し、林内に埋設することが多い捕獲個体のジビエ利用の可能性や、捕獲個体を運ぶ捕獲従事者の身体的な負担の軽減などについて考える機会を設けました。

当署管内の15市町村には、それぞれに猟友会があり、旧営林署単位(平成13年に3営林署等が統合)で広域の連合体を構成していることから、歴史的にも当署との関係にも差がありますが、会員の減少や高齢化に直面されている各地域の猟友会に、ニホンジカ捕獲を全面的に頼る現状は、必ずしも持続可能とは言えません。

ベテランの猟友会会員がいる今こそ、猟友会や関係機関等と連携、協力し、中・長期的なビジョンを持ち、ニホンジカの捕獲と活用について検討するべきタイミングではないかと考えています。

署長: 佐野 周二(令和6年4月1日~現職)